

劔岳山行報告

メンバー 山田靖則、上島康嗣 (OGAC)

山行期間 8/1～8/4

5月の白馬主稜の計画に刺激されて企画した山行であったが、同行者が見つからず、OGACの上島氏に連絡してみると二つ返事で快諾の回答があり、実行に移すことができた。はじめは単独も考えていたが、下山後考えると、今の体では頂上に立てたかどうかはわからない。上島氏に感謝。

記 録

8/1 (木)

上島氏の車で夜大阪発。

8/2 (金) 雨のち曇

室堂(8:40)ー雷鳥坂取付(9:40)ー別山乗越(12:05)ー劔沢野営場(13:00)

北陸道経由で3時頃立山駅到着。雨の降らないことを期待して車中で仮眠するが、夜明けから雨。6:00の立山ケーブルカーに乗り、美女平でバスに乗り換えて8:00に室堂バスターミナル着。登山届の提出など登山準備をして8:40に出発。雷鳥坂の取付きまでは問題なかったが、上りに入ると上島氏との間隔が開きはじめる。ダブルストックで快調に登る上島氏とは違い、雨と運動の汗と突然発生する薬の副作用のホットフラッシュの大量の発汗で全身びしょ濡れとなりながら必死についていく。途中で食料を上島氏に担いでもらい、なんとかこの上りをほぼ予定通りに登りきった。大阪を出る時からこの上りが第一の難関と捉えていたが無事クリア。別山乗越からはもはやいうことをきかない足を動かしながら劔沢野営場に着く。管理事務所に届け出て、まあまあ場所を探してテント設営。二人とも睡眠不足もあり昼寝、17:00頃上島氏に晩飯の準備でつき起こされる。今日の登りは二人とも足にきており、明日への不安を感じさせる。



夕方から雨が上がり八峰下半が見え始めた

8/3 (土) 晴

劔沢野営場(5:40)ー長次郎谷出合(7:00～7:15)ー熊の岩(10:00～10:15)ー長次郎コル(12:05～12:20)ー本峰(13:00～13:20)ー劔沢野営場(18:00)

昨日夕方から回復した天気は、日頃の行いの良さか、未明から晴れあがり絶好の登頂日和となる。4時過ぎから他のパーティが早々と出発する中、疲れで寝入った体はやっと目覚める。朝食後、劔沢を下り始めるが雪渓までのガレ混じりの下りは辛い。雪渓に降りるとやはり体は覚えていて雪面はやや硬いものの快適にキックステップで下る。先行者はみなアイゼン着用で下っている。長次郎の出合で一息入れ登りに入るが、はるか上に見える長次郎の頭をみて、時間を考えるとキックステップは辛いとの統一見解で二人ともアイゼン着用。上島氏はダブルストックで登高開始。傾斜が増えるに従い、昨日同様上島氏との距離がだんだん大きくなる。疲れた足を前へ上へと動かしながら長次郎の雪渓の上を歩いているのが、あまりに非日常的で非常に不思議な気分になる。熊の岩のすぐ下の岩棚での休憩時に、熊の岩の左側の左俣狭隘部がクレバスもなく通れそうに見えたので、こちらをルートに選択。

先行パーティの一部もここを通っている。この狭隘部を抜けたところで休憩する。時間の経過とともに雪が腐りはじめ、アイゼンのききが悪くなり、団子がついて滑りやすくなる。足はふくらはぎだけでなく大腿四頭筋も悲鳴を上げ始めた。コル直下の大きなクレバスの中で最後の休憩をとり、5時間で長次郎谷を登り切った。予定より1時間遅れであるが、雷鳥坂の疲労を抱えてはこんなものか。上がりにくくなった足を無理やりひきあげながら本峰へ。4年の時、チンネに行ったとき通って以来、45年ぶりの劔岳頂上である。長居をしたかったが冷えると一気に疲労が出てきそうなので別山尾根からの下山にかかる。疲れていなければ難所と言われているところもなんということもないのであろうが、足の疲れもあり慎重に鎖場を通過する。鎖場よりも東大谷側が切れ落ちた何もないところのほうが、バランスを崩した時に膝がこらえきれぬかで不安であった。別山尾根は人気ルートであるが、岩の経験のない人にはやはり困難なルートであると思える。平蔵のコルを過ぎてからは帰幕時間はどうでもよくなり、疲れのないペースで行ったため劔山荘に着いたときは17時近くとなり、そこからもノロノロと野営場に帰る。先着していた上島氏と成功の握手。夕食準備は彼に任せきりで、疲れて食欲もなくなり、無理やりレトルトのキーマカレーを腹に詰め込む。上島氏が劔沢小屋で買った缶ビールも申し訳ないが少しもうまいとは思わず、早く横になりたかった。苦しい一日ではあったが、ほぼ計画どおり山頂に立て、満足感一杯である。



本峰モルゲンロート



劔沢雪渓



久々の長次郎谷



長次郎左俣（中央の狭隘部を登行）



コル直下のクレバスから長次郎谷



本峰にて（サングラスで分からないが疲労困憊）

8/4（日）霧時々雨

劔沢野営場(6:40)－別山乗越(8:00～8:15)－称名川(10:00～10:15)－室堂バスターミナル(11:20)

朝、例によって外のざわめきで目を覚ますと、テントのフライをパラパラと叩く雨音が耳につく。今日は昨日よりも天気はいいはずと思いつつ、もう一度ウトウトし起床は 5:20。上島氏と違い食欲も何もなくスープを紙カップ 1 杯のみ口にして、小雨の中を撤収作業。二人とも足の様子をみながら、別山乗越までどのくらいかかるか予想するも、2 時間もあればなんとかなるとして出発。急登になるとペースはがた落ちになるが、なんとか 2 時間かからずに到着。問題は雷鳥坂の下りである。転倒しないよう登りとあまり変わらないようなペースで行くため、先行する上島氏との間隔はあくばかり。称名川の渡りではおそらく 20 分以上遅れていたと思われる。それでもやはり下りなので、ほぼ予定通り。しかし、ここからが大変であった。入山時に通った石畳の道は、登りとなり、ほとんど階段であるため、足にこたえること限りない。ほぼすべての人に抜かれながらやっとの思いでバスターミナル到着。上島氏とミッション完了の握手をした後、在阪連絡先をお願いした大野会長に無事下山の連絡をする。